

基本施策名	28	緑化を進め、公園や緑地を整備する	評価責任者 (基本施策主管課長)	都市計画課長 清水 仁敏
-------	----	------------------	---------------------	-----------------

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系	基本目標 政策	快適 自然と調和し、秩序のあるまちづくり
① 市民意識調査結果		②左記結果に対する現状分析・市民との協議結果 市民意識調査によると、必要性は平均より低いが、満足度は平均より高いということがわかる。しかし、居住地域別にみると、上野地区に住む人の満足度が低いことから市街地内に公園や緑地が不足していると思われることがわかる。
③ 基本施策の現状と課題	①都市公園のみの市民一人あたりの公園敷地面積は、都市公園法施行令で定められた標準面積を満たしていないが、都市公園としての位置づけのない運動公園や景勝公園、森林公園などの既存公園が数多く存在することから、伊賀市全体としての設置基準は満たされている。 ②市街地の人口集中地区内の住民一人あたりの公園敷地面積は基準を上回っているが、公園面積のほとんどが上野公園敷地であり、身近な広場や市民緑地などの公園や緑地の整備が必要。 ③市街地の緑化を進めるために、手入れの行き届いた樹木が植栽された庭や公園を増やす。 ④老人から子供まで楽しめるスポーツの多様化に対応した、レクリエーションの場の提供が必要。 ⑤災害時に避難場所や拠点としても対応できる公園の整備が必要。 ⑥既存の公園を存続させるための適正な維持管理が必要。	
④ 基本施策の意図、今後の展望	街に緑化を推進し、既存の公園の存続とスポーツの多様化と災害時に対応した公園の整備を行う。また、市街地においては、空き地や既存公園等を活用し、来街者や市民のコミュニティ形成の場となる空間を形成する。そのために、 ①公園施設のバリアフリー化や安全性向上に係る安全・安心対策のための施設整備と新たな公園の整備、②適切な維持管理、③樹木への親しみを深め緑化を推進する、④市街地においてポケットパーク整備等を実施したい。	

⑤基本施策指標の検討・設定

現況の課題、意図、今後の展望のキーワード	考えられる基本施策指標候補	重点化
緑化の推進	庭木の整枝・剪定講習会への参加者数	3
安全・安心対策と新たな公園の整備	整備の事業進捗率	1
適切な維持管理	維持管理を行った公園の数	2

基本施策指標名	単位	過年度実績		評価年度			ベンチマーク	指標の説明
		H20	H21	H22	H25	H30		
1 整備の事業進捗率	目標	%	5	1	7	78	100	実施済事業費/全体事業費
	実績	%	1	1				
	達成率	%	20.0	100.0				
2 維持管理を行った公園の数	目標	ヶ所	21	21	21	21	22	
	実績	ヶ所	21	21				
	達成率	%	100.0	100.0				
3 庭木の整枝・剪定講習会への参加者数	目標	人	70	70	70	70	70	
	実績	人	45	52				
	達成率	%	64.3	74.3				
	目標							
	実績							
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!				

⑥基本施策構成事務事業の評価

担当課	ID	事業名	改善余地の有無	事業費（人件費込、単位：千円）			重点化	
				H21 決算額	H22 予算額	H23 所要額		
1	産業建設部 都市計画課	554	緑化推進経費(庭木の整枝・剪定講習会)	有	213	213	213	
2	産業建設部 都市計画課	2220	都市公園安全・安心対策総合支援事業	無	0	37,590	37,590	
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
（以下 続紙）								
事業費 合計					213	37,803	37,803	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業

事業名	事業主体	事業内容等
都市公園事業 しらさぎ運動公園整備事業	市	災害時に避難場所や拠点として対応できる、老人から子供まで楽しめるスポーツの多様化に対応した運動公園の整備を行う。
街なみ環境整備事業	市	市街地において、空き地や既存公園等を活用し、道路の修景整備と連動しながらポケットパークの整備を行う。

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	基本施策指標である整備の事業進捗率は平成21年度まで1%と少ないが該当する事業が始まる、また、軌道に乗る平成22年度からは、順調に早期完成を目指して事務を行って行くこととする。また、庭木の整枝・剪定講習会への参加者数については、目標を下回っているためPRの手法の検討が必要であると考えられる。
2 事業構成の適当性（手段として最適か？）	行政で行う緑化だけでなく、個人で緑化や維持管理を行うことで、手入れの行き届いた樹木が植栽された庭や公園が増加する。また、公園施設の適切な更新や維持管理を行い、市民が快適に公園を利用することで緑への親しみが感じられることから、事業の構成は適当であると考えられる。
3 役割分担の妥当性	都市公園施設の更新、改築と緑化推進であることから市が行うことが妥当であると考えられる。
4 総合評価（今後の展開、事業の見直し等）	平成25年度の基本施策指標の目標値を達成するために、事業実施を円滑に行い国庫補助金の獲得を予定通り進めていきたい。また、庭木の整枝・剪定講習会への参加者数の目標達成に向けては、PRの手法を検討することに併せて、事業の実施手法の検討も行うこととする。